

コード	205030102
記入日	H21.6.8

課コード	106
課名	総務課
課長名	近藤忠博
担当者	本谷大輔

事務事業途中評価表

作成年度	平成 21 年度
------	----------

評価対象事業名称	消防出初式事業
----------	---------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	2	政策名称	安全、便利、快適な生活環境づくり	款コード	9
施策コード	205	施策名称	安全を実現できる体制づくり	項コード	1
基本事業コード	20503	基本事業名称	消防団組織と消防施設の充実	目コード	2
事務事業コード	2050301	事務事業名称	消防団事業費	細目コード	936
関連計画			法令・条例規則等	新上五島町消防表彰規則	

計画 (PLAN) ※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象: 誰、何を対象にしているのか		対象指標: 対象の大きさを表す指標				
(対象1) 新上五島町消防団 (対象2)		(対象指標1) 67分団 1,000名(平成20年4月1日現在) (対象指標2)				
事業の概要: 具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標: 事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	<ul style="list-style-type: none"> 出初式の実施式典(表彰伝達等) 機械器具点検 分列行進 放水演習 祝宴 事業内訳 費用弁償 3,825千円 報償費 108千円 消耗品費 182千円 食糧費 300千円 合計 4,415千円 	***	***	***	出動回数1回÷予定回数1回	*****
		① 出初式実施状況	1回	100%		平成20年度
		(達成率分析)	旧町持ち回り方式で、若松地区で実施した。			
		②				
		(達成率分析)				
目的: 何をしたいのか		成果指標: 目的の達成度を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)				
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		***	***	***	678人/1,000人	*****
		① 消防団員出席人員	678人	67.8%		平成20年度
伝統ある町の年頭行事として定着しており、功労があった団員を出初式の機会に表彰し、機械器具点検等とおして来賓各位や町民、さらに消防団自身にも改めて防火意識の向上を図ることを目的としている。		(達成率分析)	全団員出席でなく、詰所待機人員を設定し、さらには会場の関係で出席人員の要請を少なくした結果、達成率が低かったものである。			
		②				
		(達成率分析)				

実施 (DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成19年度以前	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 回	4	4	3	1	1					
	②										
成果指標	① 人	3951	3629	2,951	1000	678					
	②										
総事業費C(A+B)	千円	30,934	28,619	22,804	8,130	5,815					
直接事業費A	千円	25,334	23,019	18,604	6,730	4,415					
人件費B	千円	5,600	5,600	4,200	1,400	1,400					
内訳	従事職員数	人	0.8	0.8	0.6	0.2	0.2				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	30,934	28,619	22,804	8,130	5,815					

コード 205030102

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	国、県等の表彰の伝達の場でもあり、町として消防出初式は実施すべきである。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	住民の財産及び生命を守るとは不変的なものであり必要である。
	事業の対象・目的は適切ですか。	● 適切 ● 不適切	理由	町民の防火意識を絶やさない為にも必要である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる ● いない	理由	町の年頭行事の中で欠かせないものとして定着している。
	成果を向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理由	財政的にも行事的にもさらに簡略化した出初式のあり方を検討すべきである。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	● ある ● ない	理由	表彰伝達の場が無くなるとともに、伝統行事が無くなる事への反発が予想される。
	類似事業との整理統合はできませんか。	できる ● できない	理由	類似事業がない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	● できる ● できない	理由	簡略化した出初式のあり方を検討する必要がある。
	人件費を削減することはできませんか。	できる ● できない	理由	出初式にかかる人件費は、式典自体の準備等もあるが表彰具申事務等に時間と事務量を要するため削減することはできない。
	受益者負担は適正ですか。	● はい ● いいえ	理由	受益者負担はなし。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ、計画を見直す必要はない。
		有効性	さらに簡略化した出初式のあり方を検討する余地がある。 【改善策例】屋内式典のみ
		効率性	経費の削減として、出初式祝宴の必要性を検討する必要がある。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり
		有効性	年頭に当たっての伝統行事であり、住民への防災意識の向上に有効であるが式典のあり方など関係機関と協議・検討すること。
		効率性	経費は式典のあり方と関連するため安易な節減はできないが、関係機関との協議検討を重ねながら効率的な執行に努めること。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●			このまま事業を継続
		●		事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
	1次	2次	3次	
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。